

第 13 期 『耕人塾』で目指しているもの

風薫る5月。“薫風(くんぷう)”の言葉がふさわしい季節となりました。“薫風”という言葉は、「南風」「温和な風」「かんばしい風」のここのようです。今、ここに、『耕人塾』第13期、20名の塾生を迎え、どんな風が吹くのか楽しみです。

さて、『耕人塾』は、平成24年10月の活動開始以来、巣立った中・高校生は320人に上ります。修了した塾生の中には、社会人として活躍している人も多くいます。また、社会人の傍ら耕人塾の教学委員として後輩を指導するなどその精神が脈々と受け継がれています。

『耕人塾』の趣旨は「石巻地域の中・高校生の『人間力』を磨き、地域社会に貢献する人材を育成し、併せて大学生や市民の学びの場にする」ことです。テーマは「世界に誇れる石巻地域にしよう～発信！未来へ～」、実践事項は「あいさつ・清掃・ゴミ拾い+1(プラスワン)」です。

『耕人塾』では、「徳・体・知」の調和を大切にしています。徳を養い、心体を鍛え、知を高めます。『耕人塾』での学びや活動を通して「人間力」を磨き、その「人間力」を、他者のために尽くす“利他の心”で実践していくことが「地域社会への貢献」に繋がると考えます。

活動のコンセプト(基本的な考え方)は「主体・楽しさ・創造」ですが、塾生の主体性や創造性を生かし、さらに充実した活動にしていくために、自ら問いを見だし、学校や学年を超えた塾生の多様な考えを取り入れながら合意形成を目指します。また、中・高校生の交流のみならず、大学生、教学委員、地域の方々との交流を通じた新たなつながりを実践に生かしてほしいと考えています。

そこで、第13期は《交流活動》と《耕人塾マイプロジェクト》を柱として活動を進めます。《交流活動》は、塾生一人一人がグループ討議や実践活動等を通して、テーマ「世界に誇れる石巻地域にしよう～発信！未来へ～」に基づく課題解決に向けて追究していく活動です。そのために、各分野で活躍している方々の講話を聴き、課題を共有して参加者と対話を行い、自己の課題を追究して自己目標や活動を振り返るとともに、次の活動に生かしていきます。《耕人塾マイプロジェクト》は、石巻地域の課題について考えたことをもとに、班ごとに課題解決のためのプロジェクトを企画していく活動です。

最後に、『耕人塾』の塾生である皆さんが「人間力」を磨き、実践活動を通して他団体や市民と連携し、地域社会への貢献活動をすることによって、故郷を愛する輪が広がり、住民相互の温かな交流や自然を大切にする実践が「世界に誇れる石巻地域」に繋がると考えています。

啐 啄 同 時

～殻を破るべきタイミングを逃さずに～

「啐啄(そったく)の機」という言葉があります。「啐」は、孵化しようとするヒナが内側から卵の殻を突付くことを、また「啄」は、ヒナに呼応して親鳥が外側から殻を突付くことを表し、この両者の行動が一致した時に卵の殻が割れて新しい生命が誕生するという意味です。

禅では、弟子が正に悟りを開こうとしている際に、師が機をとらえて適切な教えを説く時の絶妙なタイミングを言い表したものです。

何事も、「機を見るに敏」の精神が求められます。塾生の皆さんが実践活動や交流活動を通して、“気づき”の一瞬を逃さず、自分の可能性を信じてチャレンジしてみましょう。